

所沢県税事務所長賞

税金の使われ方

所沢市立柳瀬中学校三年

本 田 智 也

税はいつからあったか。昔の税というと、僕には租・庸・調が思い当たるけれど、その頃は民から税が集められてもその税が民の福利として返ってくることはなかった。それに対して現代の税というと、所得税や法人税があるけれど、現代は国民から集められた税は国民のために、又それをする人たちのために使われている。税は「反対給付を約束せずに強制的に徴収」されるようだが、結局は私達のもとにきちんと帰ってきているように思う。

例えば学校。僕等の未来の可能性に税をかける―教科書の無償での配布。将来日本を支える子供たちを育成することに税をかける。他にはインフラ整備。僕等の周りの衛生環境等を整えてくれる。

3月11日、東日本大震災が発生し、何万人という人が亡くなったり避難生活を強いられるようになった。自分ができることは何か。それを私たちは一人一人考え行動しているが、復興まで考えると期待される対策や行動はあまりにも大きい。そんな中、新聞やTVでその財源としての税について議論されていることを知り、非常に期待を持った。税を復興に使うということは、私達が国のレベルで協力して、大きな対策や行動を実行できるということだ。こんな風に、何かをしたいという気持ちがあっても実際にできることは小さいことが多数だが、税という形で力を合わせれば、

大きな目的、効果のある助け合いができて、そこに貢献できるので、とても有意義なことだと思う。

今回考えてみて思ったことだけれど、日頃消費税等を使っているのは分りにくい。実感が薄い。又、公共施設等を利用しているのも、税とどう結びついているのか、あまり意識しなかった。しかし、こういう事態になってみて、改めて税がいかに有益なものであるか、ということについて考えさせられた。震災だけではなく、今後高齢化社会が進んでいくことや日本に欠かせない科学の発展も考えていくと、みんなが安心して生きていく為には税がより必要になってくると思う。